

九条の会

秋葉区「九条の会」事務局

新津教育会館内

新潟市秋葉区善道町2-9-44

Tel 0250-21-3691 Fax 0250-21-3692

<http://www7a.biglobe.ne.jp>

[/~hiro-line/nk9jo/index.htm](http://~hiro-line/nk9jo/index.htm)

「秋葉区九条の会」 結成3周年のつどい

経済界の重鎮、経済同友会終身幹事 品川正治さん来る !!

3月15日(日) 13:30~16:00 新津健康センター・はつらつホール

フルート二演奏 内山忠信さん 渡辺敏枝さん 赤いサラファン、みかんの花咲く丘、他4曲

各地の音楽祭、福祉施設で幅広く演奏活動を行なっています。

記念講演 品川正治さん 『戦争、人間、そして憲法9条』

戦争の真相を知る品川さんは『戦争を起こすのも人間、食い止めるのも人間。憲法9条を手放してはならない。日本人の力と良心を示す時』と熱く語り、全国を行脚している日本を代表する財界人。

協力券(500円)へのご協力をお願いします

略歴

1924年 兵庫県神戸市生まれ(84歳)。1944年 徴兵で中国戦線へ。

東京大学法学部卒。日本興亜損保(旧日本火災)の社長、会長

経済同友会副代表幹事、専務理事を歴任

現在、国際開発センター会長、経済同友会終身幹事

主な著書

『戦争のほんとうの怖さを知る財界人の直言』(新日本出版社)

『これからの日本の座標軸』(同前)

『9条がつくる脱アメリカ型国家—財界リーダーの提言』(青灯社)

*** 知人、友人を誘い合ってご参加ください。***



「再び戦争をしてはならない」

品川正治さんの熱い思いをお聞き下さい

3月15日に開かれる「秋葉区九条の会3周年のつどい」が近づいてきました。事務局では200人の目標を達成するために、会員訪問を進め、当日の参加と協力をお願いしてきました。講師に日本の財界を代表する品川正治さんをお迎えします。戦争を直接体験した人でなければ、戦争の実相は分かりません。当日は、是非都合を付けてご参加下さい。

事務局は、これまでお伺いしたことのない団体にも足を伸ばし協力を求めてきました。

新津商工会議所 渡辺譲代表委員、事務局で新津商工会議所を訪れ、当日の参加とポスター掲示をお願いしました。

J A新津さつき農協 総務企画課長・長谷川さんにお会いしました。元県農協中央会会長・栗原祐一さん達が呼びかけ人になってつくった秋葉区九条の会であることを話し、協力をお願いしました。案内ビラを店内においてもらうことにしました。

J A新津さつき農協新津支所 樋口金融課長さんにお会いしました。店内に案内ビラをおいてもらうことにしました。

新潟薬科大学 大学の事務長さんにお会いして、ポスターの張り出しと案内ビラの配布をお願いしました。

蒲原新聞 紙面に集会の記事を載せて欲しいとお願いしました。

県職員労働組合 **新潟市職員労働組合秋葉支部**

J R東労働組合新津工場支部 協力をお願いし、ポスター掲示、協力券への協力をお願いしました。

平和のメッセージ

「戦争で明け暮れた青春時代」

小菅フサエ (中沢町)

モンペにセーラー服姿で、秋葉の坂道を登り女学校へ通いました。新津には、男子の通う中学校がなく、男子は、新潟、三条、村松へ通っていました。

戦争中でしたので、毎日狭い体育館に全校生徒が集められ、長刀の訓練です。アメリカの軍隊が打ち寄せてきたら、長刀で突くというのです。「エイ、ヤー」のかけ声で勇ましく長刀をふり上げます。また、焼夷弾が落とされたら、消すために池からのバケツリレー。真剣に取り組んでいたことが忘れられません。

戦争が激しくなり、男子学生は軍隊へ、女子学生は企業へと借り出されました。私の妹は、新津駅の荷物扱い手として、荷物を列車に運び込む作業で、リヤカーに荷物を積んでホームを走り廻っていた姿が思い出されます。

私達の学年は、新潟の護国神社の裏門の入口に垣根をつむ作業をしている姿が卒業アルバムに残っています。石をモッコで運び、男の先生が石垣に積み上げる作業です。今でもその場を通ると「この石、私たちが積んだ」と、あの頃をおもいだします。

卒業後、長岡師範学校へ行きました。全寮制でしたが食糧難のため下宿が許され、友人と二人で父がさがした家に下宿しました。おひつをまかされて腹いっぱい食べさせてもらったことに今でも感謝しています。

当時私には、親の決めた婚約者がいました。彼は、三条中学卒業、国鉄に入社し、新津駅に勤務していました。赤紙が来て出征する時、学生時代の参考書等、全部整理し私に託して行きました。

長岡に戦死の訃報が入り、私はすぐ新津に戻りましたが、仏様の前で泣きあかしました。あの人が生きていたら私は今どんな生活をしているだろうと思うこの頃です。

秋葉区のすみずみまで響かそう、
皆でつなぐ、平和のメッセージを！

「憲法9条の精神に合わせた国づくりを」

板橋育夫 (新町)

ヒラリー米国防務長官が2月中旬日本を訪れた。マスコミの報道は、皇居を訪れたとか、東大で学生たちと話し合ったとか、概ね歓迎一色の内容であった。しかし、ヒラリー長官の本当の狙いは、中曽根外相と「在沖縄海兵隊グアム移転協定」書に調印することにあった。

この協定書は、「日本国民の税金を使って、アメリカ領土に米軍基地を建設する」、世界で類例のない計画に、日本政府が賛成することを意味している。米軍再編のため、日本政府が予定している負担は、沖縄海兵隊グアム移転費 7,100 億円を含む 3 兆円規模だ。これまでも「思いやり予算」と称して、毎年 2,000 億円を支出してきた。これを含めて在日米軍関係経費は、毎年 6,300 億円、米兵一人当たりになると 1,300 万円になる。今度の移転計画では、海兵隊のための住宅が 3,500 戸建設される。1 戸当たりの建設費が 8,000 万円と聞かされると、「何でそんなことまで日本の税金でやらなければならないのか」、と疑問がわいてくる。

沖縄の基地負担が少なくなるのであれば、「多少は仕方がないのではないか」と言う人がいる。しかし、実際の中身はそうっていない。現在沖縄米軍は 1 万 3 千人。グアム移転後も残る米軍は 1 万人、つまり、3 千人ほど減るに過ぎない。その上、名護市沖に新基地を建設することが条件だ。米軍基地の自由使用、税金の免除、刑事裁判権からの免責、光熱費の免除、など、米軍に対して「至れり尽くせり」である。こんなことをすることが、日本の平和に役立つのであろうか。憲法 9 条の精神に合致するのであろうか疑問でならない。

〈品川正治さんの書籍紹介〉 * 当日会場で販売します。

『人間尊厳』を座標軸にしたユニークな同時代論



「これからの日本の座標軸」

経済は国民の生活に「従属」すべきものという基本を忘れ、しゃにむに利益だけを追い求める社会に警鐘を鳴らし、何を座標軸に考えるかを説く。〈定価 2,520 円〉



「戦争のほんとうの恐さを知る 財界人の直言」

戦争体験や財界での経験から、9 条 2 項を持つ「21 世紀の価値」を熱く語る注目に書。〈定価 1,680 円〉

「9 条がつくる脱アメリカ型国家」



経済界の大物ご意見番が自らの中国大陸最前線での戦争体験や財界の内情をもとに、渾身の力で憲法 9 条を擁護し、戦争をしない 21 世紀日本のかたちを展望する書。〈定価 1,575 円〉

「市民はいかにして戦争に動員されるか」



小森良夫[著] 品川正治さん寄稿
戦争史の底辺を歩んで、日本の戦争を知らない世代に送る伝言。著者の親友の品川正治氏による序文を収録。
〈定価 1,575 円〉